

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890100989
法人名	医療法人クリニック暖
事業所名	グループホームファミール桑原
所在地	松山市畑寺3丁目12番30号
自己評価作成日	27年 11月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑寺の移転し2年が過ぎました。地域に根差したグループホームでいたいとの思いで、地域の方々との交流に力を入れています。ボランティアさんとの交流や、地域行事への参加、運営推進会議を通しての交流等、少しずつ畑寺の地域の方々との知り合いになり、声をかけて頂く機会が増え、大変うれしく、また心強く感じています。地域のグループホームの役割として、この事業所を生かした活動が出来ればと思います。また、それが入居者様の安心、安全な生活に繋がっていくと思っています。また、同法人のクリニック暖と連携し、医療面でも安心を目指しています。日常の健康管理からアドバイスを頂き、状態の変化に迅速にも対応が出来ます。ご希望があれば、可能なかぎり、看取りにも対応出来る体制作りを行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 11月 25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年目、桑原地区から現在の畑寺に新築移転し3年が経過した。建物2階部分にグループホーム、3階部分に母体法人のクリニックを併設され、24時間体制での医療連携は安心感がある。自立した生活を家庭的な環境で支えるというグループホーム本来の目的を忠実な運営で継続させている。さらに最期まで安心して暮らすためにはどうしていけば良いかを考え、医療連携の強化や地域交流の幅を広げている。事業所では「介護してあげる」という態度をとらないという考えの元、和気あいあいとした雰囲気の中で職員一人ひとりが自己研鑽を惜みず、習得した学びを実務の中で共有させながら利用者を支えている。家族会の開催や地域交流を相互協力のもと進めることができ、今後の運営がより期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームファミール桑原

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 谷本 貴子

評価完了日

H 27 年 11 月 13 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ①安心して生活できる環境の提供②個人の尊重と自立支援③地域交流の支援 という理念を掲げ、常に見える場所に掲示し、周知している。朝の申し送りや、カンファレンスでは、理念に沿った話し合いを行い、実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成された「1 安心して生活できる環境の提供、2 個人の尊重と自立支援、3 地域交流の支援」という3つの柱を理念にし大切にしている。入職時に説明があり各ユニットや事務所に掲示して共有するほか、ミーティング等運営に関する話し合いの場面での礎となっている。各ユニットで月間目標を掲げ、理念に沿った運営につなげることができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事に積極的に参加し、交流を持つ機会としている。また、運営推進会議では、地域の方も呼び出して認知症の勉強会の機会を作っている。日常の買い物や、行事などの際も積極的に地域の店お利用させて頂いておいる。東雲大学の実習も受け入れている。</p> <p>(外部評価) 桑原地区から畑寺地区への移転を経ているが、双方の地域住民の協力関係は良好である。地域の文化祭や季節行事への参加や事業所行事を通じて交流がさらに深まっている。地域資源や特色を把握し、外出行事先や買い物等で地域の商店や施設を利用すると共に、地域住民に向けた認知症勉強会を開催している。地域に理解が得られるよう地道な活動に努め、ボランティア協力者が増えている。今後も地域にスペースの提供や日頃の認知症介護知識を活かした活動が検討されている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の中で、地域や、家族に向けての勉強会を開催し、事業所の地域の役割として提供している。今年度は、認知症の理解のまた、玄関に認知症介護の本をおいて、地域や家族の方々に貸出し出来るようしている。これからも、事業所ならではの地域への貢献を積極的に考えていきたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、地域の方々の協力もあり、多方面の方々に参加して頂いて、事業所の報告や、地域、行政との情報交換等が出来ている。頂いた情報や意見は報告書を作成し、参加出来なかった職員にも周知している。</p> <p>(外部評価) 利用者家族、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、市担当者等の参加があり、議題や行事に応じて地域防災組織、警備会社等の協力を得て開催している。事業所報告にとどまらず、職員が内外研修で学んだ事を実践したり、地域住民に向けた認知症介護に関する勉強会として運営推進会議を活用し、参加者の印象に残る有意義な時間となっている。不参加職員には報告書で周知している。意見交換が活発で、防災に関する議題では様々なアドバイスを得ることができている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議を利用し、事業所の状況報告を行って情報提供や助言を頂いている。また、年に2回の消防避難訓練にも参加して頂いている。市社協の介護相談員制度を利用しており、入居者様の本音の部分の聴き取り、運営に反映できればと考えている。また、介護相談員制度は傾聴ボランティアとしても機能し、入居者様が訪門を楽しみにされている。</p> <p>(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員には運営推進会議へ毎回参加を得ており、実情を伝えたり情報発信してもらっている。相互での協力関係が構築され、事務手続き等運営に関する相談が気軽にできている。また介護相談員訪問の受入れは、利用者との馴染みの関係ができつつある状態で、今後運営に活かせる取組みになることに期待している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関に「拘束ゼロ宣言」と掲示し、まずしないと決めて対応方法を話し合っている。職員が拘束の弊害を十分理解できるように、カンファレンスで話し合っている。また、定期的に勉強会も行っていきたい。</p> <p>(外部評価) 身体拘束はしない方針が根付いている。毎月のカンファレンスの機会では、利用者の行動を制限する行為について話し合ったり、心身の弊害について学ぶことができている。ビルの警備システム上、出入り口や非常口、事業所玄関自動ドアにはロックがあるが、利用者や訪問者はいつでも自由に出入りすることができる。利用者が外出しそうな様子があれば、さりげなく職員は同行し、安全面に配慮しながら見守りで対応することができる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加する機会を持ち、持ち帰って、職員で勉強できる機会を作り、常に意識出来るようにしている。また、外部からの目を入れる事で閉鎖的にならない環境作りにも努めている。職員のストレスが溜まらないような無理のない労働環境作りにも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見人制度や日常生活自立支援制度を利用されている方は居られないが、この制度がある事を必要とされている方に伝えられるように、勉強の機会を継続して持ちたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時や解約時には十分時間をとって重要事項説明書や契約書に沿って話をさせて頂いている。また、疑問や不安があった場合の相談窓口を設けパンフレットにも掲示している。改定等で利用料変更の際にも、書面にて説明させて頂いたあと、相談窓口を掲載している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事の際や日常でも、家族様が訪ねて来やすいように機会を作り、意見や意向を行っていただける関係作りに努めている。年に2回は家族様と一緒に行事を計画し、交流を図り、その際にはしっかりと話を聞く機会を作っている。玄関に意見箱を設置している。家族会も開き、家族様の意見を反映し出来る体制作りを計画している	
			(外部評価) 利用者には日常の会話の中で意向を聞いている。家族等とは意見が表しやすい関係づくりに努めている。面会時や電話連絡時を活用し意見を伺うほか、遠方の家族にはメールを活用したりと疎遠にならない工夫がある。日常の様子を写真やお手紙にして届け、利用者の暮らしぶりについて理解が得られるように努めている。事業所が進行していた家族会は家族会役員が設けられ、家族等が主体となって進められることになり、率直な意見が運営に活かせることに期待ができる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回のカンファレンスでは職員全員で運営に関する話し合いも行っており、そこで出てきた意見や提案は代表者も参加する管理者会議で取り上げ、話し合い運営に反映させている。また、朝の朝礼でも共通理念のもと、職員の意見を発表する時間を設けている。</p> <p>(外部評価) 管理者は皆で事業所を作りあげるという考えを持っている。職員関係は良好で、日々の業務の中で相談できる関係にある。毎月のカンファレンスは、全職員の意見交換の機会として活用され、内容は管理者会議で代表者に伝えている。法人代表者の医師は往診等のため毎日事業所を訪問し、利用者や職員の様子や運営状態を把握することができている。職員も臆せず管理者や代表者に気軽に意見することができる関係にあり、積極的にアイデア等を伝えたり、面談の機会では今後の目標等について思いを共有することができている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は月1回の管理者会議を開催し職員の状況や職場環境の状況を把握し働きやすい環境を提供する努力をしている。また、研修参加の体制を整え、意欲を持って仕事に取り組める環境を整えている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 経験に応じた研修を受けられるように管理者や主任より研修をすすめ、また、自ら学べるように、研修案内を見える所に貼り出し、職員の希望も反映させている。介護福祉士の取得に向けて、資格を持った職員が講師になり職員で勉強会を開催している。また、運営推進会議での勉強会や、法人内研修も積極的に行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修や研修会などに参加し、他の事業所との交流の機会としている。介護労働安定センター主催のグループ会議などにも参加させて頂いている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 可能な限り入居者様ご本人に入居前に実際にホームの様子を見ていただき、納得して入居して頂けるように関係づくりに努めている。しっかりとお話を伺いながら関係機関との情報交換も行いご本人の状態把握に努め、ご本人の意向や不安等を取り除けるように援助している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居が決まった時点から、実際に入居される間も情報交換しながら、ゆっくりと話し合いの場を作っている。また、パンフレットや重要事項説明書などにそっての説明を行い、十分に理解していただき、不安無く入居していただけるように援助させていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様との情報交換を行いながら、しっかりと意向を確認し、入居に至る経緯や、関係機関からも情報をいただき、必要なサービスが受けられるように努めている。ボランティアを含め、多業種との連携等も出来るように情報収集を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者様と職員は生活を共にしながら年配者として入居者様より、生きる知恵や経験を教えて頂ける機会を作るように努めている。職員が入居者様の出来る力を見つけ出す事ができるような場を積極的に作り出し、自然な形で年配者を慕い、敬う気持ちが持てるような施設にしていきたい	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時間を特に決めずに対応し、家族様が訪ねて来やすい環境を作り、家族様にも積極的に関わって抱けるように働きかけている。ケアプランの中に家族様の面会を利用したものもあり、また、看取りケアでは家族さまの役協力も得ながら、入居者様を支えさせて頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近隣の入居者様が増えており、家族様の協力のもとに、なじみの関係の継続が出来ている。また、気軽に面会に来ていただけるように、気持ちの良い対応が出来るように職員は努めている。 (外部評価) 事業所地域は利用者にとって入居前の生活の舞台でもあり、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、良好な関係が継続できるように努めている。毎月のアセスメントに日々の申し送りやカンファレンス時に共有した情報を記載し、全職員で共有することができている。利用者や家族等が顔見知りであることから、互いの程良い距離を大切にすることを念頭に、関係を断ち切らない支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者とゆっくりかかわる時間を持ち、入居者さん同士の関わりを見守るようにしている。2ユニット間の入居者の交流もあり、支え合う関係作りが出来るように援助している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人情報や家族様の心情に配慮しながら、必要な場合は退所後も必要な情報を提供できるように援助している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時のアセスメントから、本人家族様のお話をしっかり聴き取り、日々のケアでの気づきも記録に残すことで、職員間での情報の共有をしている。カンファレンスで全職員で話し合い、ケアに生かせるようにしている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、送りノートで情報を職員同士が共有している。利用者の何気ない会話の中に現れる希望等に沿えるよう、本人の視点に立った検討や実現に努めている。思いを伝えることが困難な状況にあっても利用者の表情やしぐさから感じ取ったり、これまでの生活歴の記録や家族等に協力を得て本人本位に検討できるように努めている。	日々の介護記録は、いつでも利用者や家族等に必要に応じて開示できる状態を念頭に組み組んでおり、手間暇を惜しんでいない。書式については医療連携を含め事業所にとって最善を試行錯誤している状態にある。今後は記録の取り方やアセスメントや介護計画への落とし込み等連動する内容について学び、書式について検討することにより、より良い記録へつながることに期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメント以外にも家族様の面会の機会を利用してお話を伺ったり、入居者様との会話の中からも情報頂き記録に残しながら経過等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の様子を細かく記録に残し、体調の変化や心身の状態の変化に気付けるように、バイタルチェック表も利用しながら、一人一人の現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族さまの面会時やプラン変更時には家族様とも話し合い、また、主治医や、関係者からも情報を頂きながら月に1回の職員のカンファレンスで、個々の状況をモニタリングし、担当者が計画を立案している。	
			(外部評価) 職員担当制を敷き、個々の課題と利用者や家族等の要望を元に原案を起し、介護計画を作成している。毎月のカンファレンスでは全職員で意見やアイデアを話し合い、関わりを持っている為、利用者個々の介護計画内容の把握ができています。また介護計画の見直しがあるかないかに関わらず、毎月全利用者について介護計画内容を話し合う積極性がある。介護計画に連動した実施記録により根拠あるモニタリングへつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) バイタル、食事量、排泄などの情報以外にも言葉や表情動作など日常の様子が解るような記録とし、その中からの気づきで、状態の変化など早期発見につながる事も多い。入居者様の申し送りノートも利用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の違ったニーズに対応できるように情報を収集し、他事業所や、他のサービスとの連携や、情報交換などの機会を作っている。また、事業所の役割として、認知症の勉強会などを地域の方々にも提供している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアさんを積極的に受入れ、地位との交流にも努めている。現在、踊り、ギター、ハーモニカ、傾聴ボランティア、などのボランティアさんが来て下さっている。また、移動販売や、地域の店などを利用し交流している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) クリニック暖と併設されており、医療体制が整っているため 状態変化にも対応できている。また、専門医やかかりつけ医 への受診もクリニックだんからの医療情報もあり、家族様の 協力を得ながらスムーズに対応できている。 (外部評価) 往診や緊急時を含め24時間体制での医療連携が行えるよう体 制が整っている。特に事業所のあるビル内に在宅療養支援診 療（総合診療）を行うクリニックが併設されているため心強 い。利用者の殆どがクリニックを利用しているが、専門医の 受診等これまで利用してきた医療機関の受診も、職員同行に て希望に沿えるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) クリニック暖と併設しており医療連携を取っている事もあ り、入居者様も医師や看護師とも日頃から交流がある。日状 の様子を観ていただいていることから、小さな変化も伝えや すく、相談しやすい体制を作っていたいただいている。家族様 からも安心だとの評価を頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は医療機関との話し合いの場には家族様と共にでき るだけ職員も立ち会うようにしており情報提供できるように している。また、早期退院に向け医療連携を結んでいる医療 機関に情報提供できるように、また、事業所に戻ってからか かりつけ医との関係が取れる様に、援助している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「重度化した場合における医療体制に係る指針」を作成し入 居時に入居者様や家族様に説明し見取りまで対応出来る事を 説明させて頂いている。また入居時点での希望を確認させて 頂いており、グループホームとしての機能や、協力機関や、 地域、ボランティアなどの機能も説明させて頂いている。 (外部評価) 看取りケアを実施しており経験もある。重度化した場合にお ける対応に関わる指針及び看取りに関する指針を整備し、入 居時に説明し意向を把握している。また状況に応じた話し合 いの機会を設け、柔軟な対応に努めている。事業所のあるビ ル内に併設されているクリニックは24時間365日の医療 連携が心強く、チームでの支援に取り組むことができている。 代表者である医師が看取りに関する勉強会を職員に向けて 実施することで、不安の軽減を図っている。家族等と共に 利用者の尊厳を支える終末期ケアに真摯な姿勢で取り組んで いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 入居者様の急変時にはマニュアルを作成し、クリニック暖へ連絡をする事と成っている。また、その他の緊急時にもマニュアル作成し、緊急連絡網を作成している。また、クリニック暖より緊急時の対応、処置等指示を受けている。11月にはノロの対応についての勉強会を予定している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) それぞれにマニュアルを作成し、年2回の消防避難訓練の際には、地震や水害等の話合いや訓練も行っている。また、そのうちの1回は消防署にも立ち会って頂いている夜間想定消防避難訓練と救急蘇生法も年に1回は行うように計画し、消防避難訓練は運営推進会議とし、地域の方々や家族様、防災士さんも参加して下さっている。 (外部評価) 各種災害対策想定のマニュアルを整備している。年2回消防署立ち合いの昼夜想定避難訓練で専門的なアドバイスを受けている。運営推進会議では警備会社や地域防災組織の担当者、家族等の参加協力を得て、具体的なアイデアや対策について話し合うことができている。また、緊急連絡網には地域住民の協力が得られている	具体的に対策について地域と話し合うことができている。今後も出されたアイデア等を訓練に反映し、安全に避難できる方法を全職員で身につけることで不安軽減につなげて欲しい。また緊急連絡網を実際に使用したり、協力を得られる地域住民には明確な役割で訓練に取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様の希望や、状態にあわせ、入浴日や時間の設定を可能な限りおこなっている。夕食後に入浴される方もおられる。入浴が楽しみや、憩いの時間となるように、ゆっくりと湯船につかっていただけるように、援助している。 (外部評価) 事業所では利用者権利擁護についての指針を定め、「介護してあげるといふ態度をとらない」としている。ケアの中心は利用者であることが明確に検討され、安易に合理的な手法を選択しないよう心がけられている。利用者個々の人格を尊重した声かけや羞恥心への配慮が行われている。利用者と同じく職員の声かけは丁寧で優しい口調の対応であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の生活の様子や、ゆっくり会話をし、その表情や行動にも注意深くとらえる、その意味を推測しながら対応するように話合っている。入居者様それぞれに担当者を付け、ご本人の代弁者となれるように寄り添う努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者様の個々の生活のリズムが優先できるように工夫しながら支援している。職員やホーム側の事情で、予定や日課を変更しなければならない時は、しっかり事情を説明させて頂き、出来るだけ理解していただけるようにしている。また、別の機会を設けるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 地域との交流、外出の機会、行事等を取り入れる事によって身だしなみに気を付け、おしゃれしたい気持ちになるような機会を作っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬な野菜や、食材を取り入れ、調理の様子も見れる配置なので、音や匂いからも食べる意欲につながっている。ここに合わせて可能な限り、食事の準備や配膳等も一緒に行っている。	
			(外部評価) グループホーム本来の目的である運営方法を忠実に実施している。利用者の好みや希望を取り入れた献立をその日の調理担当職員が考えている。日々の必要な食材を利用者と地域の商店へ買出しに出かけ、日常生活の中の食を通じ、五感を刺激し豊かさを感じることができる。温かな調理の香りを楽しみながら、調理や準備、片付け等、利用者にとできることに取り組んでもらいながら、職員と食卓を囲み、和やかな時間を送っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分のチェック表を利用しながら、一日のトータル摂取量が解るようにしている。また、食事の形体も状態に合わせて、刻みやミキサー、プリン状等形体を変えて提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアを習慣となるように声掛けし、出来ないところは援助させて頂きながら、口腔ケアを行っている。また、歯科医との関係で、必要な場合の往診や口腔ケアへ繋いで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを記録し状態に合わせ、日中はトイレで排泄できるように、夜間は安眠を目的とした排泄の援助を行っている。なるべく薬に頼らずに気持ち良く排泄できるように、食事や運動等にも工夫している。	
			(外部評価) 利用者個々の食事量、水分量、排泄記録等と共に個々の排泄パターンを把握し、トイレやポータブルトイレでの自然排泄ができるよう自立に向けた支援に努めている。重度化した利用者についても、状態に合わせた用品の選択や解除方法に工夫を行いながら、できることを奪わない排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の内容や、水分量、適度な運動等で、便秘にならない工夫を取りいれている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者様の希望や、状態にあわせ、入浴日や時間の設定を可能な限り行っている。夕食後に入浴される方もおられる。入浴が、楽しみや、憩いの時間となるように、ゆっくりと湯船につかっていただけるように、工夫し援助している。	
			(外部評価) 各ユニットに個別浴槽を備え、健康面に配慮しながら利用者の希望に応じた支援に努めている。夕食後に入浴する利用者もおり、利用者全員が安心して入浴できるよう支援することができている。入浴ができない状態にある時も、足浴等を実施し清潔保持に努めることができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間、安眠できるように日中の過ごし方にも気を付け、個々に合わせ運動や散歩なども取り入れている。また、日中も好きな場所で、ゆっくり出来るように、椅子や、テーブルの配置を工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時にはご本人の分かり易く主治医からも説明いただいている。受診時や往診時には必ず家族様か職員が同席させて頂き、情報提供を行い、また、説明を聞くようにしている。処方管理は、調剤薬局に任せているが、職員も変更等把握できるように、薬剤師さんの協力も得ながら、確認するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居以前の生活歴などご本人や家族様などから伺い、趣味や得意な事などを生活の中に取り入れ、出来る事は継続できるように支援している。レクリエーションやクラブ活動として職員も一緒に楽しみながら行っている。外出の機会や各ユニットの交流、ボランティアの訪問等、気分転換や人との交流などの機会も設けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出は入居者様の希望を取り入れながら計画している。また、気の合う同士の外出や、個々の外出なども家族様の協力を得ながら行っている。実家に帰ったり、お墓参りに帰ったりとそれぞれの希望に合わせて、援助している。日常の散歩や買い物なども取りいれている。	
			(外部評価) 利用者の希望を取り入れながら年間計画を作成している。日々の状態や希望に応じ、事業所周辺を散歩したり買い物を楽しんだり、日常的に自由に外出でき、気分転換ができるように取り組んでいる。事業所周辺の商店や施設を利用することで馴染みの関係づくりができています。また、お墓参り等家族等の協力を得て支援することができています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際には、買い物の機会も作り、入居者様にお財布を持っていただきお金を使う機会を作っている。家族様と相談しながら、おこずかい程度を個人で管理しておられる方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者様が十分に行えない部分は援助しながら電話や、手紙のやり取りも支援している。年賀状や季節に合わせて挨拶状なども援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間には季節の花を飾ったり、写真を飾ったりしながら、心地の良い空間となるように配慮している。ベランダからは向かいの山が見え、日の出やお月見等には絶好の場所となっている。</p> <p>(外部評価) 両ユニットは事務所、キッチン、廊下が繋がるワンフロアになっており、利用者が自由に行き来し顔なじみの関係を築いている。浴室暖房やトイレに付けられたアームレスト等、事業所新築時には職員意見を盛り込んだ造りに工夫され、イス席やソファ等居心地良い空間で過ごすことができている。空調や温湿度に配慮し、日々の暮らしの様子や外出先での楽しい思い出が掲示された和やかな空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアは自由に行き来出来るようになっており、各部屋や全体にもつながっており、自由に行き来が出来る。また、ソファ等では、気の合う入居者様と共に過ごす事が出来ている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 一人一人個室では、気に入ったように家具なども配置して頂き、落ち着ける場所となるように家族の写真や、思い出の写真を飾ったり、また、家具や日言う品などはなじみの家具を持ち込んで頂くなどして、今までの生活から継続性のある暮らしが出来るように援助している。</p> <p>(外部評価) 利用者の使い慣れたものや好みのもを持ち込んでもらっている。家族写真や家具等、利用者がそれぞれに思い入れのあるものを持ち込み、居心地良いスペースとして使用している。清掃や整理を利用者自身が行っている居室もあり、利用者の状況に応じた支援に努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すり、表札、表示など利用してわかりづらい所や、困っている場合には迅速に対応している。日用品を工夫したり改修や介護用品の利用など安全に生活できるように援助している。また、家具の配置などにも配慮し、安全に生活出来るように援助している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890100989
法人名	医療法人クリニック暖
事業所名	グループホームファミール桑原
所在地	松山市畑寺3丁目12番30号
自己評価作成日	27年 11月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 11月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑寺の移転し2年が過ぎました。地域に根差したグループホームでいたいとの思いで、地域の方々との交流に力を入れています。ボランティアさんとの交流や、地域行事への参加、運営推進会議を通しての交流等、少しずつ畑寺の地域の方々との知り合いになり、声をかけて頂く機会が増え、大変うれしく、また心強く感じています。地域のグループホームの役割として、この事業所を生かした活動が出来ればと思います。また、それが入居者様の安心、安全な生活に繋がっていくと思っています。また、同法人のクリニック暖と連携し、医療面でも安心を目指しています。日常の健康管理からアドバイスを頂き、状態の変化に迅速にも対応が出来ます。ご希望があれば、可能なかぎり、看取りにも対応出来る体制作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年目、桑原地区から現在の畑寺に新築移転し3年が経過した。建物2階部分にグループホーム、3階部分に母体法人のクリニックを併設され、24時間体制での医療連携は安心感がある。自立した生活を家庭的な環境で支えるというグループホーム本来の目的を忠実な運営で継続させている。さらに最期まで安心して暮らすためにはどうしていけば良いかを考え、医療連携の強化や地域交流の幅を広げている。事業所では「介護してあげる」という態度をとらないという考えの元、和気あいあいとした雰囲気の中で職員一人ひとりが自己研鑽を惜みず、習得した学びを実務の中で共有させながら利用者を支えている。家族会の開催や地域交流を相互協力のもと進めることができ、今後の運営がより期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームファミール桑原

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 谷本 貴子

評価完了日

27 年 11 月 13 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ①安心して生活できる環境の提供②個人の尊重と自立支援③地域交流の支援 という理念を掲げ、常に見える場所に掲示し、周知している。朝の申し送りや、カンファレンスでは、理念に沿った話し合いを行い、実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成された「1 安心して生活できる環境の提供、2 個人の尊重と自立支援、3 地域交流の支援」という3つの柱を理念にし大切にしている。入職時に説明があり各ユニットや事務所に掲示して共有するほか、ミーティング等運営に関する話し合いの場面での礎となっている。各ユニットで月間目標を掲げ、理念に沿った運営につなげることができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事に積極的に参加し、交流を持つ機会としている。また、運営推進会議では、地域の方も呼び出して認知症の勉強会の機会を作っている。日常の買い物や、行事などの際も積極的に地域の店お利用させて頂いておいる。東雲大学の実習も受け入れている。</p> <p>(外部評価) 桑原地区から畑寺地区への移転を経ているが、双方の地域住民の協力関係は良好である。地域の文化祭や季節行事への参加や事業所行事を通じて交流がさらに深まっている。地域資源や特色を把握し、外出行事先や買い物等で地域の商店や施設を利用すると共に、地域住民に向けた認知症勉強会を開催している。地域に理解が得られるよう地道な活動に努め、ボランティア協力者が増えている。今後も地域にスペースの提供や日頃の認知症介護知識を活かした活動が検討されている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の中で、地域や、家族に向けての勉強会を開催し、事業所の地域の役割として提供している。今年度は、認知症の理解のまた、玄関に認知症介護の本をおいて、地域や家族の方々に貸出し出来るようしている。これからも、事業所ならではの地域への貢献を積極的に考えていきたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、地域の方々の協力もあり、多方面の方々に参加して頂いて、事業所の報告や、地域、行政との情報交換等が出来ている。頂いた情報や意見は報告書を作成し、参加出来なかった職員にも周知している。</p> <p>(外部評価) 利用者家族、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、市担当者等の参加があり、議題や行事に応じて地域防災組織、警備会社等の協力を得て開催している。事業所報告にとどまらず、職員が内外研修で学んだ事を実践したり、地域住民に向けた認知症介護に関する勉強会として運営推進会議を活用し、参加者の印象に残る有意義な時間となっている。不参加職員には報告書で周知している。意見交換が活発で、防災に関する議題では様々なアドバイスを得ることができている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議を利用し、事業所の状況報告を行って情報提供や助言を頂いている。また、年に2回の消防避難訓練にも参加して頂いている。市社協の介護相談員制度を利用しており、入居者様の本音の部分の聴き取り、運営に反映できればと考えている。また、介護相談員制度は傾聴ボランティアとしても機能し、入居者様が訪門を楽しみにされている。</p> <p>(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員には運営推進会議へ毎回参加を得ており、実情を伝えたり情報発信してもらっている。相互での協力関係が構築され、事務手続き等運営に関する相談が気軽にできている。また介護相談員訪問の受入れは、利用者との馴染みの関係ができつつある状態で、今後運営に活かせる取組みになることに期待している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関に「拘束ゼロ宣言」と掲示し、まずしないと決めて対応方法を話し合っている。職員が拘束の弊害を十分理解できるように、カンファレンスで話し合っている。また、定期的に勉強会も行っていきたい。</p> <p>(外部評価) 身体拘束はしない方針が根付いている。毎月のカンファレンスの機会では、利用者の行動を制限する行為について話し合ったり、心身の弊害について学ぶことができている。ビルの警備システム上、出入り口や非常口、事業所玄関自動ドアにはロックがあるが、利用者や訪問者はいつでも自由に出入りすることができる。利用者が外出しそうな様子があれば、さりげなく職員は同行し、安全面に配慮しながら見守りで対応することができている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加する機会を持ち、持ち帰って、職員で勉強できる機会を作り、常に意識出来るようにしている。また、外部からの目を入れる事で閉鎖的にならない環境作りにも努めている。職員のストレスが溜まらないような無理のない労働環境作りにも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見人制度や日常生活自立支援制度を利用されている方は居られないが、この制度がある事を必要とされている方に伝えられるように、勉強の機会を継続して持ちたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時や解約時には十分時間をとって重要事項説明書や契約書に沿って話をさせて頂いている。また、疑問や不安があった場合の相談窓口を設けパンフレットにも掲示している。改定等で利用料変更の際にも、書面にて説明させて頂いたあと、相談窓口を掲載している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事の際や日常でも、家族様が訪ねて来やすいように機会を作り、意見や意向を行っていただける関係作りに努めている。年に2回は家族様と一緒に行事を計画し、交流を図り、その際にはしっかりと話を聞く機会を作っている。玄関に意見箱を設置している。家族会も開き、家族様の意見を反映し出来る体制作りを計画している (外部評価) 利用者には日常の会話の中で意向を聞いている。家族等とは意見が表しやすい関係づくりに努めている。面会時や電話連絡時を活用し意見を伺うほか、遠方の家族にはメールを活用したりと疎遠にならない工夫がある。日常の様子を写真やお手紙にして届け、利用者の暮らしぶりについて理解が得られるように努めている。事業所が進行していた家族会は家族会役員が設けられ、家族等が主体となって進められることになり、率直な意見が運営に活かせることに期待ができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回のカンファレンスでは職員全員で運営に関する話し合いも行っており、そこで出てきた意見や提案は代表者も参加する管理者会議で取り上げ、話し合い運営に反映させている。また、朝の朝礼でも共通理念のもと、職員の意見を発表する時間を設けている。 (外部評価) 管理者は皆で事業所を作りあげるとい考えを持っている。職員関係は良好で、日々の業務の中で相談できる関係にある。毎月のカンファレンスは、全職員の意見交換の機会として活用され、内容は管理者会議で代表者に伝えている。法人代表者の医師は往診等のため毎日事業所を訪問し、利用者や職員の様子や運営状態を把握することができている。職員も臆せず管理者や代表者に気軽に意見することができる関係にあり、積極的にアイデア等を伝えたり、面談の機会では今後の目標等について思いを共有することができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は月1回の管理者会議を開催し職員の状況や職場環境の状況を把握し働きやすい環境を提供する努力をしている。また、研修参加の体制を整え、意欲を持って仕事に取り組める環境を整えている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 経験に応じた研修を受けられるように管理者や主任より研修をすすめ、また、自ら学べるように、研修案内を見える所に貼り出し、職員の希望も反映させている。介護福祉士の取得に向けて、資格を持った職員が講師になり職員で勉強会を開催している。また、運営推進会議での勉強会や、法人内研修も積極的に行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修や研修会などに参加し、他の事業所との交流の機会としている。介護労働安定センター主催のグループ会議などにも参加させて頂いている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 可能な限り入居者様ご本人に入居前に実際にホームの様子を見ていただき、納得して入居して頂けるように関係づくりに努めている。しっかりとお話を伺いながら関係機関との情報交換も行いご本人の状態把握に努め、ご本人の意向や不安等を取り除けるように援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居が決まった時点から、実際に入居される間も情報交換しながら、ゆっくりと話し合いの場を作っている。また、パンフレットや重要事項説明書などにそっての説明を行い、十分に理解していただき、不安無く入居していただけるように援助させていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様との情報交換を行いながら、しっかりと意向を確認し、入居に至る経緯や、関係機関からも情報をいただき、必要なサービスが受けられるように努めている。ボランティアを含め、多業種との連携等も出来るように情報収集を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者様と職員は生活を共にしながら年配者として入居者様より、生きる知恵や経験を教えて頂ける機会を作るように努めている。職員が入居者様の出来る力を見つけ出す事ができるような場を積極的に作り出し、自然な形で年配者を慕い、敬う気持ちが持てるような施設にしていきたい	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時間を特に決めずに対応し、家族様が訪ねて来やすい環境を作り、家族様にも積極的に関わって抱けるように働きかけている。ケアプランの中に家族様の面会を利用したものもあり、また、看取りケアでは家族さまの役協力も得ながら、入居者様を支えさせて頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近隣の入居者様が増えており、家族様の協力のもとに、なじみの関係の継続が出来ている。また、気軽に面会に来ていただけるように、気持ちの良い対応出来るように職員は努めている。 (外部評価) 事業所地域は利用者にとって入居前の生活の舞台でもあり、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、良好な関係が継続できるように努めている。毎月のアセスメントに日々の申し送りやカンファレンス時に共有した情報を記載し、全職員で共有することができている。利用者や家族等が顔見知りであることから、互いの程良い距離を大切にすることを念頭に、関係を断ち切らない支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者とゆっくりかかわる時間を持ち、入居者さん同士の関わりを見守るようにしている。2ユニット間の入居者の交流もあり、支え合う関係作りが出来るように援助している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人情報や家族様の心情に配慮しながら、必要な場合は退所後も必要な情報を提供できるように援助している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時のアセスメントから、本人家族様のお話をしっかり聴き取り、日々のケアでの気づきも記録に残すことで、職員間での情報の共有をしている。カンファレンスで全職員で話し合い、ケアに生かせるようにしている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、送りノートで情報を職員同士が共有している。利用者の何気ない会話の中に現れる希望等に沿えるよう、本人の視点に立った検討や実現に努めている。思いを伝えることが困難な状況にあっても利用者の表情やしぐさから感じ取ったり、これまでの生活歴の記録や家族等に協力を得て本人本位に検討できるように努めている。	日々の介護記録は、いつでも利用者や家族等に必要に応じて開示できる状態を念頭に組み立てており、手間暇を惜しんでいない。書式については医療連携を含め事業所にとって最善を試行錯誤している状態にある。今後は記録の取り方やアセスメントや介護計画への落とし込み等連動する内容について学び、書式について検討することにより、より良い記録へつながることに期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメント以外にも家族様の面会の機会を利用してお話を伺ったり、入居者様との会話の中からも情報頂き記録に残しながら経過等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の様子を細かく記録に残し、体調の変化や心身の状態の変化に気付けるように、バイタルチェック表も利用しながら、一人一人の現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族さまの面会時やプラン変更時には家族様とも話し合い、また、主治医や、関係者からも情報を頂きながら月に1回の職員のカンファレンスで、個々の状況をモニタリングし、担当者が計画を立案している。	
			(外部評価) 職員担当制を敷き、個々の課題と利用者や家族等の要望を元に原案を起し、介護計画を作成している。毎月のカンファレンスでは全職員で意見やアイデアを話し合い、関わりを持っている為、利用者個々の介護計画内容の把握ができています。また介護計画の見直しがあるかないかに関わらず、毎月全利用者について介護計画内容を話し合う積極性がある。介護計画に連動した実施記録により根拠あるモニタリングへつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) バイタル、食事量、排泄などの情報以外にも言葉や表情動作など日常の様子が解るような記録とし、その中からの気づきで、状態の変化など早期発見につながる事も多い。入居者様の申し送りノートも利用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の違ったニーズに対応できるように情報を収集し、他事業所や、他のサービスとの連携や、情報交換などの機会を作っている。また、事業所の役割として、認知症の勉強会などを地域の方々にも提供している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアさんを積極的に受入れ、地位との交流にも努めている。現在、踊り、ギター、ハーモニカ、傾聴ボランティア、などのボランティアさんが来て下さっている。また、移動販売や、地域の店などを利用し交流している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) クリニック暖と併設されており、医療体制が整っているため 状態変化にも対応できている。また、専門医やかかりつけ医 への受診もクリニックだんからの医療情報もあり、家族様の 協力を得ながらスムーズに対応できている。 (外部評価) 往診や緊急時を含め24時間体制での医療連携が行えるよう体 制が整っている。特に事業所のあるビル内に在宅療養支援診 療（総合診療）を行うクリニックが併設されているため心強 い。利用者の殆どがクリニックを利用しているが、専門医の 受診等これまで利用してきた医療機関の受診も、職員同行に て希望に沿えるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) クリニック暖と併設しており医療連携を取っている事もあ り、入居者様も医師や看護師とも日頃から交流がある。日状 の様子を観ていただいていることから、小さな変化も伝えや すく、相談しやすい体制を作っていたいただいている。家族様 からも安心だとの評価を頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は医療機関との話し合いの場には家族様と共にでき るだけ職員も立ち会うようにしており情報提供できるように している。また、早期退院に向け医療連携を結んでいる医療 機関に情報提供できるように、また、事業所に戻ってからか かりつけ医との関係が取れる様に、援助している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「重度化した場合における医療体制に係る指針」を作成し入 居時に入居者様や家族様に説明し見取りまで対応出来る事を 説明させて頂いている。また入居時点での希望を確認させて 頂いており、グループホームとしての機能や、協力機関や、 地域、ボランティアなどの機能も説明させて頂いている。 (外部評価) 看取りケアを実施しており経験もある。重度化した場合にお ける対応に関わる指針及び看取りに関する指針を整備し、入 居時に説明し意向を把握している。また状況に応じた話し合 いの機会を設け、柔軟な対応に努めている。事業所のあるビ ル内に併設されているクリニックは24時間365日の医療 連携が心強く、チームでの支援に取り組むことができている。 代表者である医師が看取りに関する勉強会を職員に向けて 実施することで、不安の軽減を図っている。家族等と共に 利用者の尊厳を支える終末期ケアに真摯な姿勢で取り組んで いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 入居者様の急変時にはマニュアルを作成し、クリニック暖へ連絡をする事と成っている。また、その他の緊急時にもマニュアル作成し、緊急連絡網を作成している。また、クリニック暖より緊急時の対応、処置等指示を受けている。11月にはノロの対応についての勉強会を予定している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) それぞれにマニュアルを作成し、年2回の消防避難訓練の際には、地震や水害等の話合いや訓練も行っている。また、そのうちの1回は消防署にも立ち会って頂いている夜間想定消防避難訓練と救急蘇生法も年に1回は行うように計画し、消防避難訓練は運営推進会議とし、地域の方々や家族様、防災士さんも参加して下さっている。 (外部評価) 各種災害対策想定のマニュアルを整備している。年2回消防署立ち合いの昼夜想定避難訓練で専門的なアドバイスを受けている。運営推進会議では警備会社や地域防災組織の担当者、家族等の参加協力を得て、具体的なアイデアや対策について話し合うことができている。また、緊急連絡網には地域住民の協力が得られている	具体的に対策について地域と話し合うことができている。今後も出されたアイデア等を訓練に反映し、安全に避難できる方法を全職員で身につけることで不安軽減につなげて欲しい。また緊急連絡網を実際に使用したり、協力を得られる地域住民には明確な役割で訓練に取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様の希望や、状態にあわせ、入浴日や時間の設定を可能な限りおこなっている。夕食後に入浴される方もおられる。入浴が楽しみや、憩いの時間となるように、ゆっくりと湯船につかっていただけるように、援助している。 (外部評価) 事業所では利用者権利擁護についての指針を定め、「介護してあげるという態度をとらない」こととしている。ケアの中心は利用者であることが明確に検討され、安易に合理的な手法を選択しないよう心がけられている。利用者個々の人格を尊重した声かけや羞恥心への配慮が行われている。利用者向き合う職員の言葉かけは丁寧で優しい口調の対応であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の生活の様子や、ゆっくり会話をし、その表情や行動にも注意深くとらえる、その意味を推測しながら対応するように話合っている。入居者様それぞれに担当者を付け、ご本人の代弁者となれるように寄り添う努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者様の個々の生活のリズムが優先できるように工夫しながら支援している。職員やホーム側の事情で、予定や日課を変更しなければならない時は、しっかり事情を説明させて頂き、出来るだけ理解していただけるようにしている。また、別の機会を設けるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 地域との交流、外出の機会、行事等を取り入れる事によって身だしなみに気を付け、おしゃれしたい気持ちになるような機会を作っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬な野菜や、食材を取り入れ、調理の様子も見れる配置なので、音や匂いからも食べる意欲につながっている。ここに合わせて可能な限り、食事の準備や配膳等も一緒に行っている。	
			(外部評価) グループホーム本来の目的である運営方法を忠実に実施している。利用者の好みや希望を取り入れた献立をその日の調理担当職員が考えている。日々の必要な食材を利用者と地域の商店へ買出しに出かけ、日常生活の中の食を通じ、五感を刺激し豊かさを感じることができる。温かな調理の香りを楽しみながら、調理や準備、片付け等、利用者にとできることに取り組んでもらいながら、職員と食卓を囲み、和やかな時間を送っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分のチェック表を利用しながら、一日のトータル摂取量が解るようにしている。また、食事の形体も状態に合わせて、刻みやミキサー、プリン状等形体を変えて提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアを習慣となるように声掛けし、出来ないところは援助させて頂きながら、口腔ケアを行っている。また、歯科医との関係で、必要な場合の往診や口腔ケアへ繋いで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 個々の排泄パターンを記録し状態に合わせ、日中はトイレで排泄できるように、夜間は安眠を目的とした排泄の援助を行っている。なるべく薬に頼らずに気持ち良く排泄できるように、食事や運動等にも工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者個々の食分量、水分量、排泄記録等と共に個々の排泄パターンを把握し、トイレやポータブルトイレでの自然排泄ができるよう自立に向けた支援に努めている。重度化した利用者についても、状態に合わせた用品の選択や解除方法に工夫を行いながら、できることを奪わない排泄支援に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 食事の内容や、水分量、適度な運動等で、便秘にならない工夫を取りいれている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入居者様の希望や、状態にあわせ、入浴日や時間の設定を可能な限り行っている。夕食後に入浴される方もおられる。入浴が、楽しみや、憩いの時間となるように、ゆっくりと湯船につかっていただけるように、工夫し援助している。</p> <p>(外部評価) 各ユニットに個別浴槽を備え、健康面に配慮しながら利用者の希望に応じた支援に努めている。夕食後に入浴する利用者もおり、利用者全員が安心して入浴できるよう支援することができている。入浴ができない状態にある時も、足浴等を実施し清潔保持に努めることができている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 夜間、安眠できるように日中の過ごし方にも気を付け、個々に合わせ運動や散歩なども取り入れている。また、日中も好きな場所で、ゆっくり出来るように、椅子や、テーブルの配置を工夫している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時にはご本人の分かり易く主治医からも説明いただいている。受診時や往診時には必ず家族様か職員が同席させて頂き、情報提供を行い、また、説明を聞くようにしている。処方管理は、調剤薬局に任せているが、職員も変更等把握できるように、薬剤師さんの協力も得ながら、確認するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居以前の生活歴などご本人や家族様などから伺い、趣味や得意な事などを生活の中に取り入れ、出来る事は継続できるように支援している。レクリエーションやクラブ活動として職員も一緒に楽しみながら行っている。外出の機会や各ユニットの交流、ボランティアの訪問等、気分転換や人との交流などの機会も設けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出は入居者様の希望を取り入れながら計画している。また、気の合う同士の外出や、個々の外出なども家族様の協力を得ながら行っている。実家に帰ったり、お墓参りに帰ったりとそれぞれの希望に合わせて、援助している。日常の散歩や買い物なども取りいれている。 (外部評価) 利用者の希望を取り入れながら年間計画を作成している。日々の状態や希望に応じ、事業所周辺を散歩したり買い物を楽しんだり、日常的に自由に外出でき、気分転換ができるように取り組んでいる。事業所周辺の商店や施設を利用することで馴染みの関係づくりができています。また、お墓参り等家族等の協力を得て支援することができています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際には、買い物の機会も作り、入居者様にお財布を持っていただきお金を使う機会を作っている。家族様と相談しながら、おこずかい程度を個人で管理しておられる方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者様が十分に行えない部分は援助しながら電話や、手紙のやり取りも支援している。年賀状や季節に合わせて挨拶状なども援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間には季節の花を飾ったり、写真を飾ったりしながら、心地の良い空間となるように配慮している。ベランダからは向かいの山が見え、日の出やお月見等には絶好の場所となっている。</p> <p>(外部評価) 両ユニットは事務所、キッチン、廊下が繋がるワンフロアになっており、利用者が自由に行き来し顔なじみの関係を築いている。浴室暖房やトイレに付けられたアームレスト等、事業所新築時には職員意見を盛り込んだ造りに工夫され、イス席やソファ等居心地良い空間で過ごすことができている。空調や温湿度に配慮し、日々の暮らしの様子や外出先での楽しい思い出が掲示された和やかな空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアは自由に行き来出来るようになっており、各部屋や全体にもつながっており、自由に行き来が出来る。また、ソファ等などでは、気の合う入居者様と共に過ごす事が出来る。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 一人一人個室では、気に入ったように家具なども配置して頂き、落ち着ける場所となるように家族の写真や、思い出の写真を飾ったり、また、家具や日言う品などはなじみの家具を持ち込んで頂くなどして、今までの生活から継続性のある暮らしが出来るように援助している。</p> <p>(外部評価) 利用者の使い慣れたものや好みのもを持ち込んでもらっている。家族写真や家具等、利用者がそれぞれに思い入れのあるものを持ち込み、居心地良いスペースとして使用している。清掃や整理を利用者自身が行っている居室もあり、利用者の状況に応じた支援に努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すり、表札、表示など利用してわかりづらい所や、困っている場合には迅速に対応している。日用品を工夫したり改修や介護用品の利用など安全に生活できるように援助している。また、家具の配置などにも配慮し、安全に生活出来るように援助している。</p>	